

# 令和7年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

急速な少子高齢化・単身世帯の増加等により、地域で暮らす人々のつながりの希薄化が進み、また国際情勢等を背景とした物価高騰の影響を受け、生きづらさや孤独・孤立を感じる人、生活に困窮する人が増加するなど地域福祉をめぐる課題はますます複雑化、深刻化しています。そうした状況下、本会においては「第3期大阪市地域福祉活動推進計画」の基本理念である「つながり・支えあうことができる福祉コミュニティをつくる」にそって「地域づくり」や「相談支援」、新たな参加の場の創設や拡充を図る「参加支援」の推進に向け事業を行ってまいりました。

また、大型高層マンション等の建設による転入者等により、福島区では年々人口が増加しており、子育てや介護の問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が増加し、多様化・重複化しています。このような福祉課題の解決に向けて、アウトリーチを強化し、地域福祉活動支援、要援護者の見守りネットワーク強化事業、地域包括支援センター事業等が連携し支援してまいりました。地域支援事業、生活支援体制整備事業では、参加の場の創設や居場所づくりの支援を地域や関係機関と連携し行ってまいりました。さらに経済的に困窮した世帯に対して生活福祉資金窓口による生活福祉資金の貸付や生活困窮自立相談支援窓口による住居確保給付金等への対応やフードパントリーの実施などにも取り組んでまいりました。

近年多発する災害への備えを見据え、災害ボランティアスタッフ養成講座、職員研修・訓練を実施しました。引き続き職員の災害対応力の向上、関係機関との連携強化にも努めてまいります。

## 1. 会 議

令和7年5月16日 監事による会計監査

5月26日 理事会

5月26日 善意銀行運営委員会

6月13日 理事会

6月13日 地区・校下社協会長会

6月13日 地域ネットワーク委員長会

6月21日 評議員会

6月27日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

10月 9日 福祉基金（植本・小林・手嶋基金）運営委員会

12月25日 理事会

12月25日 地区・校下社協会長会

12月25日 地域ネットワーク委員長会

令和8年3月 6日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

3月13日 理事会

3月13日 地区・校下社協会長会

3月13日 地域ネットワーク委員長会

3月27日 評議員会

## 2. 事業概要

### (1) 会員の募集

①基本会員（役員・組織構成会員）：85人

②賛助会員 個人：195人 / 団体：14団体

### (2) 地域福祉活動推進支援

①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活できるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小

地域で実施する事業推進のための支援を行った。

- ア 地区・校下社協会長会の開催（3回）
- イ 地域ネットワーク委員長会の開催（3回）
- ウ 子育てサロン連絡会の実施（1回）
- エ コミュニティサロン連絡会全体会議の参画（全4回）  
こどもの居場所活動部門会議の開催（全4回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（12回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の開催（全3回）
- キ 認知症サポーター養成講座の開催（全10回）
- ク 地域福祉活動カレンダーの作製4,000部
- ケ 地域子育て応援マップの作製5,500部
- コ 子育て情報紙「フッピーキッズ」55、56、57号の  
発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

こどもの居場所づくり活動支援（33回）

ふくしまフェスタの開催（11月8日）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援会議の開催（4回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（1回）
- ウ 地域自立支援協議会の参画（5回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（2回）
- オ 野田地域情報交換会（事前打合せ、振り返り含む）（4回）

(3) 福島区社会福祉施設連絡会の運営

①連絡会の開催（2回）

②福祉イベント

あいあいまつり（2月14日）

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会

ア 「カスタマーハラスメント対応について」(1月23日)

イ 一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会(2月6日)

#### ④地域貢献

子育てサロンへの保育士派遣(8回)

### (4) 広報・啓発活動の推進

#### ①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行(タブロイド版4面)

4月に第95号、8月に第96号、12月に97号を  
各13,000部発行した。

#### ②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピーキッズ』の発行支援(年3回)

イ 地域子育て応援マップの作成・発行(5,500部)

#### ③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に  
関する情報提供

イ 区社協公式LINEによる情報発信

ウ 区社協Instagramによる情報発信

エ 各種講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

#### ④その他

区社協パンフレットを福島区への転入者に配布

### (5) ふれあいイベントの開催

区内の社会福祉施設・ボランティア・地域活動協議会などによる日頃の活動紹介・交流や福祉について啓発を行う目的で、第23回あいあいまつりを開催(2月14日(土)参加者約800名)

### (6) 福島区ボランティア・市民活動センターの運営

#### ①情報の収集・発信(啓発・広報)

福島区社協だより、広報ふくしま、福島区社協公式LINE、Instagram等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行った。

ボランティアに関する情報発信のため、「あいあいボランティアだより」を年3回発行した。

## ②事業企画

ア 障がいのある人とその家族などを対象に「障がい児・者スポーツ・レクリエーションひろば」を開催。（8月7日（木）参加者48名）

## ③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会（全2回）

イ みんなのサロン“あいあい”の開催（全12回）

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによるパフォーマンス（演奏や踊り・体操など）の披露

参加者：延べ150人

ウ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画（全8回）

内訳：全体会議（4回）、こどもの居場所活動部門（4回）

## ④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

a 福島区ボランティアグループ助成金：10団体375,000円交付

b 福祉ボランティア活動応援資金：6団体220,000円交付

c 福祉基金：植本・手嶋基金4団体105,000円、小林基金3団体115,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品（印刷機、紙折り機、拡大機）等の提供

a 会議・練習等活動のための部屋の利用（15団体利用）

b 活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用（15団体利用）

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	対 象	内容、共催・協力団体等
5月15日(木)	海老江東小学校1年生 3クラス82人	発達障がいについて 講師：ぼっかぼか
5月24日(土)	海老江西小学校2・4年生 51人	防災ゲーム(防災すごろく、 持ち出し品ゲーム)
5月30日(金)	海老江東小学校2年生 81人	まちたんけん (あいあいセンターの説明)
9月6日(土)	海老江東小学校2・3年生 147人	防災ゲーム(防災すごろく、 持ち出し品ゲーム)
9月27日(土)	玉川小学校3・4年生 141人	防災教育 (車いす・高齢者疑似体験) 協力：防災リーダー
10月3日(金)	海老江西小学校2年生 11人	まちたんけん (あいあいセンターの説明)
11月26日(水)	大開小学校3・4年生 113人	防災教育(東日本大震災を題 材にした語りの防災教育・ 防災ゲーム) 講師：個人ボランティア
1月19日(月)	野田小学校3・4年生 144人	防災教育(高齢者疑似体験・ 防災クイズ)
1月26日(月)	福島小学校6年生 2クラス47人	身体障がいについて (当事者講話・車いす体験・ ボッチャ体験) 講師：個人ボランティア
2月9日(月)	福島小学校3年生 2クラス48人	視覚障がいについて(当事者 講話・アイマスク体験) 講師：就労支援事業所 カラフル大阪
2月20日(金)	福島小学校5年生 2クラス68人	聴覚障がいについて (当事者講話・手話体験) 講師：手話サークルふじ

2月26日(木)	海老江東小学校3年生 2クラス67人	身体障がいについて(当事者 講話・ボッチャ体験) 講師:個人ボランティア
3月4日(水)	八阪中学校1年生 4クラス136人	障がいについて(車いす・ア イマスク・高齢者擬似体験) 協力:個人ボランティア

⑥ ボランティア活動支援 (282件)

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
72件	63件	76件	17件	20件

⑦ ボランティア活動の紹介 (令和8年3月末)

ア 個人・団体登録状況

個人登録者: 140人 (新規登録者: 37人)

団体登録数: 41団体 (新規登録団体: 1団体)

イ ボランティア活動件数: 742件 (前年度: 919件)

ウ ボランティア活動延人数: 6,111人 (前年度: 7,316人)

⑧ ボランティアの養成・育成

養成講座名	実施日	参加者
地域のこども支援ボランティア養成講座	① 9月18日(木) ② 9月26日(金) ③ 10月1日(水) ~14日(火) ④ 10月16日(木)	18人
傾聴ボランティア養成講座	① 10月8日(水) ② 10月15日(水) ③ 10月22日(水)	20人

精神保健福祉ボランティア養成講座	① 10月17日(金) ② 10月24日(金) ③ 10月25日(土) ④ 10月31日(金)	12人
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	① 11月15日(土) ② 11月22日(土) ④ 11月30日(日)	25人

⑨ ボランティア総合保障制度（ボランティア保険）受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象にボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア行事用保険』等への加入を促し、その受付業務を行った。

ボランティア活動保険	基本プラン	386人
	天災・地震補償プラン	302人
ボランティア行事用保険		15,073人
福祉サービス総合補償		1142人
送迎サービス補償		0人

⑩ 災害ボランティアセンターに関する業務

ア 区社協職員災害研修(全4回)

a 「BCP等に基づく防災力向上」講義とグループワーク(2回)

b 災害ボランティアセンター立ち上げ、運営訓練(実践)(1回)

※災害ボランティアセンタースタッフ養成講座と合同で実施。

c 市・区社協合同災害対策本部設置・運営訓練(実践)(1回)

イ 区防災担当者とワークショップを開催(1回)

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座(全3回)

エ MCA無線通信訓練(10回)：毎月第4火曜日実施

オ 海老江西小学校防災教育：5月24日(土)

カ 海老江東小学校防災教育：9月6日(土)

- キ 玉川小学校防災教育：9月27日（土）
- ク 大開小学校防災教育：11月26日（水）
- ケ 野田小学校防災教育：1月19日（月）
- コ 災害用品の購入（備品及び備蓄用品）

#### （7）障がい者福祉に関する事業

- ①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈
- ②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

#### （8）地域福祉に関する事業

##### ①車いす貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車いすの貸し出し（2週間）を実施  
貸出し件数：226件 前年比170%増（保有台数28台）

##### ②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し（短期間：2週間程度）  
を実施。

貸出し件数：1件（保有台数6台）

##### ③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ  
貸出し件数：0件

#### （9）高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…令和7年度中に満100歳を迎える高齢者（対象者15人）に記念品を贈呈。7年度も一番早い誕生月の方へ区社協会長、区長、地区・校下社協会長と訪問し、他の方は対象者宅へ送付した。

## (10) 善意銀行の運営

- ① ボランティアグループ・団体等への払出し 6件
- ② 歳末助け合い運動に対する払出し 4件
- ③ 各種行事等に対する払出し 9件
- ④ 寄付でいただいた物品について、子ども食堂、こどもの居場所、コミュニティサロン等へお届けし、活動支援やSDGsの取組みを実施。

月日	寄贈者	品名	数量
4月17日	ワールドコマース株式会社	精肉ミンチ	1kg×75パック
4月17日	日本流通産業株式会社 (くらしモア)	食品缶詰等	
5月8日	中村敏子	食料品(フリーズ ドライぞうすい)	44パック
5月16日	個人	食料品(ホワイト ペッパー、ラーメ ン、パスタ、パスタ ソース)	
6月5日	中村茂喜	食料品(インスタ ントみそ汁、パッ クご飯、缶詰等)	
6月17日	五大物産株式会社	食料品	
6月24日	個人	精米	5kg
7月1日	大阪信用金庫 上福島支店	フードドライブ (即席麺、パッ クご飯等)	
9月12日	有限会社 五感	食料品(アイスク リーム)	400個
10月9日	(株) 阪急阪神ホテルズ ホテル阪神大阪	絵本	61冊
10月16日	日本流通産業株式会社 (くらしモア)	食品缶詰等	
10月29日	福島区卓球協会	表彰状用紙、トラ ンプ	
11月4日	北村 緑	紙おむつ	
11月17日	大阪信用金庫 上福島支店	フードドライブ (精米、うどん、 菓子等)	
12月2日	個人	将棋盤(駒付き)	
12月5日	須見 直美	衣類	13着

12月10日	大阪西北ロータリークラブ	クリスマスブーツ160個、ゲーム景品用お菓子、フードパントリー用食品60名分	
12月23日	個人	精米	5kg
1月15日	橘 澄江	碁盤、碁石	
1月15日	個人	紙おむつ	
2月18日	個人	紙おむつ	
3月10日	(株) 阪急阪神ホテルズ ホテル阪神大阪	絵本	61冊
3月19日	(株) りそな銀行 野田支店	菓子	
3月24日	日本流通産業株式会社 (くらしモア)	食品缶詰等	
3月24日	ワールドコマース株式会社	精肉ミンチ	5kg×23パック
3月27日	大阪信用金庫 上福島支店	フードドライブ (精米5kg×3、えんぴつ、菓子等)	
毎月	西北環境事業センター(区役所)	フードドライブ	

※令和7年度善意銀行寄贈物品一覧

### (11) 地域における要援護者の見守り支援ネットワーク強化事業

平成27年4月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

#### 機能①地域の見守り活動への支援

同意書を対象者に郵送または見守り支援ネットワークカーの訪問により同意確認を行った。また、要援護者名簿の整備・管理を行い、地域での見守り活動が円滑に行えるよう、地域の見守り活動者に対し支援を行った。

対象：①65歳以上高齢者で要介護3以上の方または要介護2

以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者

②身体障がい1・2級、視覚・聴覚障がい3・4級、音声・言語機能障がい3級、肢体不自由3級、知的障がいA、

## 精神障がい 1 級

### ③難病患者（医療機器などへの依存度の高い人）

#### ア 同意確認書の郵送（再発送含む）

第 1 回目	4 月 1 1 日	3 9 5 人 + 再発送 1 8 8 人
第 2 回目	9 月 1 2 日	3 8 5 人 + 再発送 1 8 9 人
合計		計 1, 1 5 7 人

平成 2 7 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月末までの同意者へ登録情報更新のお知らせとして、同意書の郵送を行った。

第 1 回目	7 月 3 日	7 3 6 人 (上福島・福島・玉川・野田・ 吉野・新家・海老江西)
第 2 回目	8 月 1 日	4 3 3 人 (大開・鷲洲・海老江東)
合計		計 1, 1 6 9 人

イ 返信 1, 3 8 4 人（返信率：8 7. 5 %）

同意：9 9 6 人 不同意：2 1 6 人

ウ 訪問 7 2 件（回答率：5 6. 9 %）

同意：3 6 人 不同意：5 人

#### エ 地域へ要援護者名簿の提供

（令和 7 年 6 月 1 日（追加名簿）、令和 7 年 1 2 月 1 日（定例名簿））

提供先：各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会、  
民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

## 機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員：1 9 2 人

男性：7 3 人 女性：1 1 9 人 不明：0 人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第 2 土曜日（全 6 回）参加者数延 1 1 名の方が参加。

ひきこもり支援について学ぶ…しまりす会 特別編…として

「より良い明日への羅針盤～ひきこもり状態の人とともに～」

研修会を開催。当日は、13名の方が参加。

(令和7年3月8日)

ウ 「ふくくるカフェ」の開催

・令和4年11月より、生活あんしん相談窓口・見守り相談室が中心となり開催していたひきこもり当事者の会「フリースペース・シマリス」の活動を見直し、令和6年1月から対象者を広げ「ふくくるカフェ」に名称変更。

コミュニケーションに苦手意識のある人や誰かに話を聞いて欲しい人など、誰でも参加できる居場所として取り組んでいる。昨年度より、コミュニケーションを図るため、また新たな経験ができるよう参加者と一緒に簡単な調理を行うことを取り入れている。

・奇数月の第2土曜日に実施（全6回実施）

参加者 延べ34人

機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

ア 発見協力者：177件（民生委員・地域活動者・各種団体など）

イ 事前登録者：21人（男性：9人 女性：12人）

ウ 行方不明配信依頼：1件（大阪市内配信）

発見件数：1件（全て令和7年度にメール配信実施）

発見場所：区内1件

エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業（GPS利用）：1件

オ 警察からの支援対象事案情報提供

39件（実人数 男性：14人、女性：25人）

その他

ア 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業の実施

65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、事前に家の鍵を預かり、緊急と判断された時には鍵を使って家の中に入り安否を確認する事業をモデル地域（海老江西地域）にて実施。

イ 各種会議への参加

自立支援協議会、高齢者支援会議、支援調整会議、地域福祉コーディネーター連絡会へ参加し見守り相談室の業務及び

要援護者名簿を活用した見守り活動への協力依頼や周知、  
広報等を行った。

ウ 各種研修会等への参加、開催

a 新家地域見守り活動者研修会への参加や、地域で行われている見守り活動に参加。

b 地域福祉活動者を対象に、「地域で見守りを進めるために  
～知ることから始めよう、見守りの輪から」を開催。

当日は、76名の方が参加。（令和7年12月19日）

c 見守り活動を啓発し、地域で気づきの目を増やす取り組み  
として、大開地域・新家地域にて見守り声かけ訓練を実施。

（大開：令和7年10月6日、新家：令和8年1月30日）

（12）生活困窮者自立支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に「生活あんしん相談窓口（生活自立支援相談窓口）」を開設。引き続き令和7年4月1日から令和10年3月31日まで3年間受託し事業の実施を行う。

① 相談実績

ア	新規相談受付件数（本人未特定を含む）	344件
イ	プラン策定前支援終了件数（初回スクリーニング時）	164件
	a 情報提供のみで終了	132件
	b 他機関へのつなぎで終了	32件
	c スクリーニング判断前に中断・終了	0件
ウ	支援決定・確認件数（再プランを含む）	106件
エ	就労支援対象者数（プラン期間中の一般就労を目標）	40件

② 支援調整会議

ア	支援決定・確認件数（再プランを含む）	106件
イ	評価実施件数（再プラン含む）	91件
	a 終結	48件

b 再プランして継続 43件

c 中断 0件

### ③事業実施・協力

ア 福島区役所保健福祉課主催の支援会議に出席し、各窓口担当と事例検討し連携の強化に努めた。

イ 企業やロータリークラブ等から食料等の提供を受け、食料支援を実施。また食料を必要とする方を対象に12月にフードパントリーを開催。

### ④周知・広報

ア 事業周知チラシを駅や地域の区役所掲示板に掲示

イ 福島区社会福祉協議会ホームページへ事業内容を掲載

ウ 福島区社会福祉協議会広報紙「あいあいだより」や「暮らしのお役立ち情報ガイド」へ事業内容を掲載

エ 地域福祉コーディネーター連絡会で事業チラシを配付

オ 区役所内全ての窓口へカード型チラシを設置

カ 地域への周知広報・事業説明

a 各地区の民生委員児童委員協議会会議で事業周知

b 地域福祉コーディネーター連絡会に参加

c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体会議）に参加し事業説明

d 地区・校下社協会長会、地域ネットワーク委員長会で事業周知

## (13) 生活支援体制整備事業

高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、生活支援コーディネーターを配置し多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

### ① ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

ア 生活支援コーディネーター通信を年2回（Vol. 4、Vol. 5）発行生活支援体制整備事業や関わっている取り組みについての紹介とともに福島いきいきウォーク参加者と作成したマップを掲載した。作成・配布を通して、活動状況の聞き取りや、高齢者の状況等を把握した。昨年度に引き続き、地域包括支援担当や見守

り相談室、地域支援担当等で地域アセスメント会議・振り返りを開催し社協職員の視点から小地域ごとの地域特性や課題等の分析・情報の蓄積をおこなった。野田地域で情報交換会の振り返りを行い、地域住民の視点に基づく地域特性や課題を把握・情報の蓄積をおこなった。

イ 協議体の開催（全4回）

開催日：5月8日、9月11日、11月13日、3月12日

② 地域資源・サービスの開発

ア 地域資源サービスの立ち上げ支援

「eスポーツサポーター養成講座」

開催日：①9月29日 ②10月7日 ③10月21日

目的：昨年度開催したeスポーツ体験会にて、今後も続けたいとの声があった。サロンなどの集いの場において、eスポーツを活用する際にサポートを行うボランティアの養成を行う。

内容：switchの使い方、Switch本体の立ち上げ方の説明  
グループワーク

開催場所：あいあいセンター 多目的室

参加人数：9人

イ 地域資源・サービスの継続支援

「福島いきいきウォーク」

開催日：第1回〈海老江西地域〉①5月17日②5月23日  
第2回〈鷺洲〉①2月26日②2月27日

内容：①まち探検、②まち探検の振り返り会を実施。

地域を知る機会や新たな地域活動者の発掘、地域住民の交流の仕組みづくりとしてまち探検及び、参加者と歩いた地域のマップを作成。

開催場所：まち探検 第3回海老江西地域 第4回鷺洲地域

参加者：第1回①10人②6人 第2回①15人②11人

「オンラインふくふじ体験会」

開催日：第1回3月13日

第2回3月19日

目的：多様な居場所、繋がりづくりとして社会参加のきっかけとなるよう、高齢者や障がいの方など外出が難

しい方も参加しやすいツールを活用し居場所づくりを行う。

内 容：Zoomの使い方説明・Zoomを使った交流会

開催場所：あいあいセンター 多目的室

参加者：7人

#### ウ 講座等の開催

「地域の居場所づくり講座」

開催日：3月3日

目的：地域の居場所づくりに興味のある方の「なにかしてみたい」という気持ちを大切にしながら、サロン活動についての講話や、実際の活動者の事例紹介をとおして、はじめるきっかけづくりの場とする。

内 容：1部講話 2部事例紹介 3部ミニ座談会

開催場所：福島区民センター 第3会議室

参加者：10人

#### エ 活動の場の発掘・開発

平成福島苑や福島ともしび苑の活動スペースを活用し、新たな活動の場として、フレイル予防の通いの場の開催や健康マージャンを活用した取り組みの調整を行った。

UR住宅の集会所スペースを活用し、カフェを開催。男性の居場所づくりボランティアグループ「浪花ふくしま男塾」と繋げカフェボランティアを行っていただくことで、活動の場の発掘を行った。

#### ③サービス実施情報の周知等

コミュニティサロン・子ども食堂の情報を掲載した福島区コミュニティサロンカレンダーを毎月発行。ホームページや公式LINEを活用し周知を行った。生活支援コーディネーター通信は、各講座での配付やInstagramに掲載し幅広く周知を行った。

包括支援センターと共同で、「シニアのための暮らしのお役立ち情報ガイド10号」を発行。高齢者が見やすく活用しやすいよう、地域別の通いの場をマップ形式で掲載した。

## (14) 地域の福祉活動サポート事業及び福島お助けネットワーク事業

### ①地域の福祉活動サポート事業

平成28年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の推進等に取り組んだ。

また、毎月1回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

a 相談ならびに安否確認を含む件数…488件

訪問：26件 来館：305件

電話：156件 その他：メールFAXなど1件

b 見守り・状況把握

延べ人数4,251人

c 開室日数（延べ日数）…1,737日（※在宅勤務数含む）

平日1,704日・休日（土・日・祝）33日

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会、研修会 実施内容

	開催日	主な内容
1	4月11日	○コーディネーター事務連絡会 ○研修会：地域包括支援センターの役割・オレンジチームについて
2	5月9日	○コーディネーター事務連絡会
3	6月13日	○コーディネーター事務連絡会
4	7月11日	○コーディネーター事務連絡会 ○研修会：地域活動者向け研修（意見交換会）
5	8月1日	○コーディネーター事務連絡会
6	9月12日	○コーディネーター事務連絡会 ○研修会：①職場におけるハラスメントの防止等②カスタマーハラスメント③個人情報の取扱④USBの取扱いについて ○区民まつり打ち合わせ ○みんなの相談室アンケート調査について
7	10月10日	○コーディネーター事務連絡会
8	11月14日	○コーディネーター事務連絡会

9	12月12日	○コーディネーター事務連絡会
10	12月19日	○研修会:地域で見守りを進めるために ～知ることから始めよう、見守りの輪～
11	1月9日	○コーディネーター事務連絡会
12	2月13日	○コーディネーター事務連絡会
13	3月13日	○コーディネーター事務連絡会

a 「広報ふくしま」に10月号掲載

b 「区民まつり」で周知（みんなの相談室アンケート等実施）

## ②福島お助けネットワーク事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有償ボランティア（サポーター）を募り援助する本事業について、平成28年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。令和3年11月より、利用料金を2ランク制に改定。

車いすでの付き添い等スキルの要する作業、家具の移動など重い負荷のかかる作業等は30分600円。掃除、買い物代行、蛍光灯取替え、話し相手等は30分300円。

利用対象者は65歳以上の方、障がいのある方であったが、令和7年度より生活課題（ケガや病気等）があり周囲に支援する人がいない方も対象とするよう事業拡大を行った。

### ア 利用者・サポーター登録数

利用登録者数			サポーター登録者数		
男性	女性	計	男性	女性	計
52人	222人	274人	24人	33人	57人

※令和7年3月末現在と比較して

・利用登録者数は、計1人減（男性△5人・女性4人）

・サポーター登録者数は、計12人減（男性0人・女性△12人）

### イ マッチング数

合計590件（男性依頼者111件、女性依頼者479件）

※令和7年3月末現在と比較して

50件増（男性32件・女性18件）

ウ サポーター研修等 実施内容

	開催日	主な内容
1	5/7・7/3・18・19・9/20・10/2・17・2/20・25	サポーター新規登録者導入研修について
2	11/27・12/3～6・9・15～17・23・1/15・21・22・2/19・27・3/12	カスタマーハラスメント対応についてサポーターに資料を配付し説明
3	11月30日	災害ボランティアセンター設置・運営模擬訓練に参加

エ 周知、広報

- a 「広報ふくしま」に7月号掲載
- b 関係機関にポスター、チラシの設置
- c ふれあい喫茶、食事サービス、区民まつり、あいあいまつりで周知
- d 見守り活動で周知

(15) その他

①日赤会費（社資）事務への協力

②大阪府共同募金会事務への協力

実施期間：令和7年10月1日～令和8年3月31日

実施内容：助成金配分申請・内容の周知

③安全衛生委員会の開催

労働安全衛生法に基づき、職員の危険及び健康障害を防ぐための基本的な対策について、産業医や衛生管理者等による調査審議を行った。（全12回）

開催日：4月24日、5月29日、6月26日、7月31日、

8月28日、9月25日、10月30日、11月27日、

12月25日、1月29日、2月26日、3月26日

④ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、ストレスに関する質問票に職員が記入し、職員自身のストレスがどのような状態にあるのか調べる検査を実施。区社協採用職員が受検した。

⑤その他

- ア 大阪市社会福祉大会への参加
- イ 福島区民まつりへの参加
- ウ ふくふくまつりへの参加

3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

(1) 地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域の高齢者の心身の健康維持・生活安定のために必要な援助や支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や権利擁護に基づき個人の権利を主体的に行使できるように支援を行った。

① 総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・介護・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応した。また、下福島ブランチ・野田ブランチに総合相談窓口を委託し、各地域の相談に対応した。

相 談 機 関	延べ相談件数
地域包括支援センター	6, 804件 (前年度7, 897件)
総合相談窓口 (下福島・野田ブランチ)	2, 657件 (前年度3, 216件)

②権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談で、権利擁護の支援が必要な高齢者に対して、保健福祉センターや関係機関と連携をとりながら、成年後見制度等の活用支援を行った。

a 成年後見制度に関する相談 延べ187件

イ 虐待の疑いのある高齢者に対し関係機関と協力し対応を行った。  
高齢者虐待に関する相談 延べ123件

ウ 虐待の緊急性・虐待の有無、状況確認、対応計画の策定、終結等の判断を行う「サービス利用調整会議」の参加 延べ20回

エ 民生委員・児童委員対象の虐待早期発見・早期対応のための講座を実施（1/27）

③予防給付に関するマネジメント

要支援1・2の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援した。

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
認定者数 (人)	713	460	643	649	435	502	325
備考	認定総数 3,727人 うち要支援1・2ケアプラン作成委託件数 月平均約657件						

※令和7年10月1日時点における介護保険システムからの抽出情報

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議

- a 医療・介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議を開催した。（8回開催）
- b 要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き自立を促すQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。（8回開催）

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口（ランチ）である下福島ランチ（阪神長楽苑）、野田ランチ（福島ともしび苑）、認知症初期集中支援チームと毎月1回連絡会を開催し、地域の相談状況や支援内容の検討、介護予防啓発等の情報交換を実施。（12回開催）

ウ 地域における居宅介護支援事業者の後方支援

- a 福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の情報交換（ケアマネカフェ）、研修会等を開催。（13回開催）
- b 処遇困難な事例等に関するケアマネジャーへの個別支援  
延べ1,188件

⑤ 関係機関のネットワークの形成

ア 区内、近隣区の事業者相互の情報交換・資質の向上と住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

a 福島区ホームヘルパー連絡会（5回開催）

b 通所サービス連絡会（6回開催）

c 訪問看護事業所連絡会（6回開催）

d 介護ホーム連絡会（3回開催）

e 医療機関相談員連絡会（3回開催）

イ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業者等と連携し「福島区在宅医療を考える会」を共催。

a 在宅医療を考える会 世話人会（1回開催）

b 在宅医療を考える会研修会（3回開催）

開催日	内 容	参加人数
9月10日	講習：救命医療講習会 エピペンの使い方とアナフィラキシーショックについて オートショックAEDと使い方実習	73人
11月21日	講演：在宅歯科講習会 みんなで支える！生活期の嚥下障害の考え方・かかわり 方	60人
1月29日	「相手と良い関係を築くためのユマニチュードの哲学と 技術」	46人

ウ 健康展

a 健康展実行委員会（3回）

b 健康展（10/18 参加者308人）

エ 関係機関の会議参画

a 在宅医療・介護連携支援コーディネーター連絡会（12回）

b 地域福祉コーディネーター連絡会（12回）

c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体）（4回）

d キャラバン・メイト連絡会（2回）

e 自立支援協議会（5回）

f 社会福祉施設連絡会（3回）

g 地域包括ケアシステム推進会議（1回）

⑥出張相談会・イベント等の実施

ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや福祉センターなどに出向き相談を受け付けた。

イ 複合した相談等にも対応できるように、地域自立支援協議会等と連携し、区役所1階にて出張相談会を開催。（12回実施）

ウ 大阪厚生信用金庫大淀支店にて、年金支給日午前にはランチと連携し、介護なんでも相談会を開催。（6回実施）

エ イオン薬局と共催し、毎月15日イオン野田阪神店で、高齢者なんでも相談会を開催。（12回実施）

オ 認知症サポーター養成講座の参画。（2回）

カ マンション・集合住宅の集会室等、身近な場所での出張相談会を全地域で実施した。（31回実施）

地域名	開催日
上福島	10/7（火）シャトー西梅田
福島	9/4（木）メガロコープ福島 9/10（水）藤和堂島ハイタウン
玉川	4/8（火）アーベイン中之島 8/28（木）玉川コミュニティセンター 10/20（月）ユニライフ福島 11/18（火）キングマンション堂島川 11/29（土）野田スカイハイツ
野田	6/15（日）、9/21（日）リバーガーデン福島
吉野	9/11（木）吉野コミュニティセンター 11/12（水）新橋筋商店街
新家	9/25（木）新家コミュニティセンター 11/20（木）大開厚生年金住宅
大開	6/17（火）、3/9（月）UR大開団地 7/16（水）、2/4（水）野田パークマンション

大 開	8/4 (月) 野田阪神駅前商店会 1/26 (月) 福島グランドヴィラ
鷺 洲	6/23 (月)、2/9 (月) UR鷺洲第二団地 7/3 (木)、2/16 (月) URリバーサイドさぎす 10/30 (木)、12/25 (木)、1/29 (木) 鷺洲コミュニティセンター 6/14 (土) リバーガーデン福島 木漏れ日の丘
海老江東	9/11 (木) ジオ福島野田the marks 11/14 (金) グリーンシティオオサカ
海老江西	9/18 (木) 海老江西コミュニティセンター

キ 地域の課題抽出のため地域活動者との情報交換会を実施  
(10/28 野田コミュニティセンター)

ク 若年性認知症啓発映画上映会・講演会  
(2/21 区民センター参加者207人)

ケ 「地域包括支援センターだより」の発行(4回)

みんなの相談室への配架、高齢者食事サービス・ふれあい喫茶等での周知のほか、インスタグラム、公式LINE等SNSも活用し周知した。

コ 民生委員等との高齢者同行訪問実施

民生委員や町会が行う見守り活動に同行し、周知活動を行うとともに支援が必要な高齢者の早期発見・早期支援に繋げた。

## (2) 家族介護支援事業 家族介護者のつどい(かいご泣き笑い会)

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

開催日	内 容	参加人数
5月15日	ハンドケア～手と心をほぐしてリフレッシュ～	15人
7月17日	講座 「腰・ひざ・脳も元気に！あきらめない健康づくり」	13人
9月18日	フレイル予防講座	10人

11月20日	ワークショップ講座 クリスマスリース作り	12人
1月15日	「認知症」知って得するミニ講座	10人
3月19日	ヤクルト「健康セミナー」	16人

### (3) 認知症強化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざした。

#### ① 認知症初期集中支援事業

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置。早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

##### ア チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族支援等の初期支援を包括的集中的に行い、自立生活のサポートを行う。

##### イ 認知症地域支援推進員の活動

認知症になっても自分らしく、希望を持って地域で暮らし続けられるという「新しい認知症観」の理念に基づき、認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすいまちづくりのための活動を様々な機関や団体と連携しながら行う。

(具体的な活動内容)

ア 医師・包括相談員・チーム員・地域支援推進員で、支援ケースの方向性を検討するため、認知症初期集中支援チーム員会議開催

… 12回

- イ 認知症初期集中支援チーム対応ケース（若年性認知症の相談含む）… 40件
- ウ 事業の推進・広報啓発活動実績（案内チラシの配布等）… 133件
- エ 関係者会議への参加
  - キャラバンメイト連絡会 3回
  - 高齢者支援会議 3回
  - 自立支援型ケアマネジメント検討会議ふりかえり会議 1回
  - 地域ケア会議課題抽出会議 1回
- オ 区地域包括支援センター運営協議会への参加… 3回
- カ 認知症カフェへの側面的支援… 30回
- キ 社会参加活動の支援… 63回
- ク その他
  - a 認知症に関するパネル展（9/16～9/30 福島区役所1階ロビー、10/18 健康展、8/26～10/31 福島図書館入口展示ブース）
  - b 認知症とともに2026「オレンジランプ」映画上映会・当事者丹野智文さんによる講演会を開催。（2/21 区民センター 参加者207人）
  - c 健康展（10/18 区民センター参加者308人うちiPadによる認知症チェックコーナー 参加者106人）
  - d 区民向け講座～認知症とともに～「”認知症かも？”に『備える』講座」を開催。（9/6 あいあいセンター 参加者37人）
  - e 認知症サポーター養成講座の参画（10回、延べ134人）
  - f 地域住民対象の認知症予防講座（5回、延べ41人）
  - g 認知症当事者のための相談・交流・活動の場である「おれんじドアおおさか」と連携して若年性認知症の方によるトークセッションを行った。（3/14 ウィステリア・カフェにて）

#### (4) オレンジサポーター地域活動促進事業

認知症地域支援コーディネーターを配置し、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしてつづけられるよう認知症の方を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症の方の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

- ① 事業等の広報・周知活動実績… 79件
- ② 地域の生活支援ニーズとオレンジサポーターの把握
  - ア 地域の生活支援ニーズ把握実施数… 16回
  - イ ステップアップ研修受講者数… 6人
- ③ 企業・団体へ登録の推奨・後方支援
  - ア オレンジパートナー企業・団体の登録… 3件
  - イ オレンジパートナーの後方支援… 67件
- ④ ちーむオレンジサポーターへの後方支援
  - ア ちーむオレンジサポーターの後方支援… 246件
  - イ ちーむオレンジサポーターの登録… 3件

#### (5) あんしんさぼーと事業（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行なった。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

- ① 相談及び対応件数 2,688件（前年度2,811件）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他
1,547件	407件	734件	0件

- ② サービス利用者数(令和8年3月末現在) 51人(前年度43人)
- ③ 委任契約締結件数 19件（前年度13件）
- ④ 委任契約終了件数 11件（前年度8件）

## (6) 介護予防事業

### ① 介護予防教室事業（あいあい教室）

月1回、コミュニティセンター、福祉センターで要支援・要介護状態をできる限り予防し自立した生活が送れるよう講座を開催。

実施地域	延べ参加人数		
	4～9月	10～3月	合計
上福島 地域	131	119	250
福島 地域	46	56	102
玉川 地域	103	135	238
野田 地域	76	65	142
吉野 地域	63	67	130
新家 地域	99	103	202
大開 地域	53	50	103
鷺洲 地域	170	164	334
海老江東 地域	67	78	145
海老江西 地域	35	40	75
合計	843人 (前年度790人)	877人 (前年度841人)	1,720人 (前年度1,631人)

### ② 介護予防運動クラブ（区社協独自事業）

#### ア 介護予防運動クラブ「ベーシック」「スタンダード」

複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施日時：火・水・金曜日 1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方

定員：6人（先着）

参加費：1クール12回 4,000円

## 【参加人数一覧（延べ人数）】

(人)

	火曜 コース	水曜 コース	金曜 コース	計
ベーシックコース	176	198	161	535
スタンダードコース	148	162	93	403
計	324	360	254	938 (前年度813)

## イ 介護予防運動クラブ「フリークラス」

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実施の要望から、フリークラス教室(全3回)を実施した。(2クラス)

実施日時：木曜日 1クール12回・全3クール

対象者：スタンダードクラス終了者〔定員6人〕

参加人数：延べ212人(前年度104人)

参加費：1クール12回 4,000円

## ③あいう健康体操教室(区社協独自事業)

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日

実施回数：96回

参加人数：延べ851人

参加費：3,000円(5回分)

## ④介護にならない体づくり ランラン体操(区社協独自事業)

介護予防運動指導員による体操教室

実施日時：水曜日

実施回数：36回

参加人数：延べ人数192人

参加費：1回600円

## (7) 子ども・子育てプラザ事業

令和7年度は、利用者の意見を事業に反映させることを目的に、乳幼児の保護者向けに「意見箱」を設置し、開催希望の講座やイベント、おもちゃの購入に関する意見を募った。児童の「みんなの声」も継続し、寄せられた意見をもとに、運営を行っている。児童向けに「みんなでお弁当をたべよう」を実施し、長時間プラザを利用できるようになり、児童の利用増加につながった。さらに新たに区内つどいの広場との連携イベント「赤ちゃん縁日」を開催し、多くの乳幼児親子に参加いただき区内つどいの広場を改めて周知する機会となった。

また、担い手養成のためにファミリー・サポート・センター事業「提供会員養成講座」や、区社協地域支援担当とともに「地域のこども支援ボランティア養成講座」を実施し、新たなボランティアを養成することができた。

### ①子育て活動支援事業

#### ア 子育て情報の収集・管理・提供

##### a 講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行（乳幼児と保護者対象）・・・12回
- ・プラザだよりの発行（児童対象）・・・・・・・・・・4回
- ・ホームページの情報更新・・・随時

##### b 区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、 情報提供

#### イ 地域の自主的な子育て活動への支援

##### a 地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出し を実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・12回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・随時

b 子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
子育て支援ボランティア養成講座（西区と共催） （ファミリー・サポート・センター福島提供会員養成講座）	全 7 回	2 4 人
地域のこども支援ボランティア養成講座	全 4 回	1 8 人

c 地域子育てサロンへの出前講座の開催

・ 出前講座の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3 回

ウ 子育て中の親子の支援

a 子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
ベビーマッサージ&産後ヨガ	6 回	1 1 2 人	5 6 人
ウキウキ身体測定（※区保健師・保育 コンシェルジュ相談会同時開催）	1 2 回	7 9 7 人	4 1 9 人
おはなしのじかん	1 2 回	7 9 8 人	4 0 0 人
似顔絵を描いてもらおう	1 0 回	1 2 7 人	6 2 人
親子ピクス	4 回	1 7 7 人	8 9 人
英語を楽しもう	4 回	1 7 2 人	9 0 人
親子リトミック	3 回	1 8 2 人	9 1 人
マタニティヨガ	2 回	1 0 人	
プレママ・プレパパ講座	2 回	1 8 人	
音楽コンサート	2 回	1 9 0 人	8 2 人
離乳食&幼児食講座	2 回	9 8 人	4 6 人
こいのぼりを作ろう	1 回	6 1 人	3 0 人
七夕かざりをつくろう	1 回	6 3 人	3 2 人
クリスマス会	1 回	1 4 2 人	7 2 人
歯のおはなし	1 回	5 0 人	2 5 人
パパと遊ぼう&ママのリフレッシュ講座	2 回	7 1 人	2 7 人

ヤクルト講座（おなか元気教室）	1回	42人	20人
プラザまつり	1回	211人	97人
事故防止と応急手当について学ぼう （ふじまめっこルーム共催）	1回	52人	24人

#### エ 児童の健全育成

内 容	開催回数	参加人数
卓球の日	38回	346人
けん玉教室	4回	36人
プラバン工作	1回	9人
クリスマス会	1回	24人
ピククルボール体験会	1回	8人
プラザまつり	1回	10人
ドッジボール大会	1回	15人
夏休みの宿題をしよう（7/22～8/24）		55人
こどもボランティア（常時開催）		64人
みんなでお弁当をたべよう（土日・長期休み開催）		191人
スライム作り	1回	5人
キッズサポーター養成講座	1回	2人
折り紙で金魚づくり工作	1回	8人
キッズクッキング	1回	11人
リサイクル工作教室（出張ひろば）	1回	13人
工作を楽しもう（出張ひろば）	1回	5人

#### オ 地域関連事業（アウトリーチ）

プラザ外でのイベントの開催や老人福祉センターとの世代間交流事業を開催した。

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
しゃぼん玉であそぼう(そよら)	2回	78人	37人
うちわを作ろう(ウイステ)	1回	28人	15人
おひなさまを作ろう(ウイステ)	1回	20人	8人
赤ちゃん運動会 (ママカフェ@fukushima共催)	1回	132人	57人
赤ちゃん縁日(区内つどいの広場共催)	1回	187人	92人
盆踊りを踊ろう(世代間交流事業)	1回	39人	20人
節分工作と豆まき(世代間交流事業)	1回	98人	45人

## ②ファミリー・サポート・センター事業

子育ての援助が必要な方「依頼会員」と、子育ての援助ができる方「提供会員」が会員として登録し、子育てを地域でささえあう「ファミリー・サポート・センター事業を実施。

活動件数：1,923件

令和8年3月31日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
180人	65人	11人

## ③地域子育て支援拠点事業(つどいの広場事業)

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供。

利用人数(延べ人数)：14,923人

(うち乳幼児7,665人) / 年間

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
お誕生日会	12回	397人	205人
ちっち☆ひまわり	2回	67人	42人
こどものほめ方・しかり方講座	1回	54人	27人

- イ 子育て等に関する相談、援助の実施
- ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携
- エ ブックスタートの実施 12回 237人(内乳幼児110人)

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌「フッピーキッズ」の編集委員会の開催。

編集委員会の開催	10月・1月
フッピーキッズの発行	9月・12月・3月

子育てに関する情報紙「おでかけカレンダー」を毎月発行

イ 子育て支援連絡会における事務局

福島区役所・区社協との事務局開催。区内の保育園等施設や

区内つどいの広場・子育てサロン等の運営者との情報交換

開催	内容	参加者
第1回(6月)	防犯に関する基礎知識とグループワーク	40人
第2回(1月)	事例から考える利用者対応のあり方	38人

その他、年2回併設の老人福祉センター・海老江保育所と合同避難訓練を実施

(8) 老人福祉センター事業

指定管理者第V期(令和6年度～令和10年度)の2年目に当たり、当該年度の協定書に準拠して区役所・関係先と連携しながら高齢者の生きがいづくりや社会参加を支援する地域の拠点施設としてセンター事業運営を行った。

前年度に続き「つながり支えあう福祉コミュニティの創出、福祉のまちへとつなぐ架け橋」を基本方針とし、「楽しい通いの場!コロナ禍前に戻そう!」をモットーに①「介護予防の拡充」②「生きがいと健康の追及」③「相談・情報提供事業」④「老人クラブの活動支援」⑤「同好会支援による活性化」、そして⑥「福島区の地域保健福祉ビジョンへの参画」の重点6項目に沿って事業を推進した。

◇高齢者の居場所づくり、孤立防止への取組み

事業名	事業内容	参加人数
「みんなで笑って健康に」	(株)米朝事務所に依頼。介護レクリエーション資格を持つ落語家の、小噺やクイズを通じた笑いや笑顔による健康作りプログラム。	48人

◇健康づくりと介護予防の促進講座

事業名	事業内容	参加人数
「漢字DE脳トレ」 「漢字DE脳トレⅡ」	クイズやパズルで漢字を楽しく学んで脳を活性化。	44人
「オーラルフレイルと補綴治療」	口の機能低下について学習。噛む力をガムテストで測定。	16人

◇健康・体力づくり事業

事業名	事業内容	参加人数
「靴と健康」 足の骨格とウォーキングシューズ	足の健康とウォーキングシューズの機能と選び方について学習。	30人
「睡眠ヨガ」質の高い睡眠を得るために	睡眠の質で自律神経のバランスが整い認知症予防につながる。	31人
「昭和歌謡で踊ろう」	身振り、ステップ、ポーズを意識して歌って踊って健康づくり。	24人
「椅子ヨガ」リラックス&リフレッシュ	椅子に座ったまま簡単にできるヨガを体験。	26人

◇生きがい探求講座・教養講座

事業名	事業内容	参加人数
シニア世代の「知っておきたい片付けポイント」	シニア世代が安全に暮らすための片付けのポイントや手放す方法を学習。大阪市住まい情報センター出前講座。	27人
「相続税」わかりやすい相続税の仕組みと贈与税について	相続税の計算方法や主な特例、贈与税ほかについて学習。	29人
「認知症にまつわる資産防衛」	日本認知症資産相談士協会の弁護士より実例を用いて学習。	18人
ヤクルト健康セミナー「生活習慣病とその予防」	骨ウェーブ測定を行い、ロコモやフレイル予防、骨粗しょう症について学習。	24人
明治食育セミナー「カラダは食べ物からできている」	栄養・運動・口腔ケアを中心に、水分摂取の重要性についても学習。	25人
美容セミナー「スキンケア・メイク体験講座」	肌トラブルの防止とメイクについて楽しみながら学習。	26人
雪印メグミルク「チーズセミナー入門編」	入門編として国産チーズを中心にその種類や特長レシピ等を学習。	31人
ペーパークイリング体験講座	ヨーロッパで広まった日本では未だ珍しい紙アートの体験講座。	8人

◇生きがいづくり事業

事業名	事業内容	参加人数
奏筆体験講座 奏筆体験講座 2	筆文字と水彩画の組合せでハガキづくりを体験。	33人
はじめての川柳	川柳とは何か(俳句との違い)などを学習し、既成作家の優れた句などを鑑賞。	25人

◇高齢者の自主的な地域活動支援（人材育成）

事業名	事業内容	参加人数
eスポーツ体験会	福島区社協の生活支援コーディネーターとの共催で体験会を実施。 区内各地域でのeスポーツへの参加者勧誘やリーダー募集を実施。	17人
「認知症の今を学ぼう」これからは備えよう	福島区地域包括支援センター・オレンジチームとの共催で認知症についての学習と認知症カフェへの参加呼びかけを実施。	20人

◇地域間交流・世代間交流事業

事業名	事業内容	参加人数
施設見学「中央卸売市場の見学」	大阪の台所である大阪市中心卸売市場が果たす役割と食品が家庭に供給されるまでの経路を体験/お買い物体験も実施。	30人
節分工作と豆まき	プラザ利用の乳幼児と保護者、センター利用者との世代間交流を図る季節行事。	6人

第12回きらめきミーティング「工藤区長と話そう！」	福島区長とのセンター利用者との車座集会。事前に質問、意見を募集し区長より回答。当日意見も受け付けご回答。	33人
---------------------------	--	-----

◇啓発活動・啓発講座

事業名	事業内容	参加人数
「スマホ活用講座」	ソフトバンクスマートフォンアドバイザーによるLINEとスマホ決済操作の体験講座。	39人
シニア向け「スマートフォン教室」	KDDIの認定講師による基本操作の体験講座。	17人
「シンプルスマホの使い方」	ソフトバンクスマートフォンアドバイザーによる基本操作の講座。	11人
ドコモ「スマホ体験教室」	参加者自身のスマホを持ち込んでマップとキャッシュレスの使い方を体験学習。	40人
「特殊詐欺防止教室」 あなたは大丈夫ですか	福島警察生活安全指導班の寸劇による特殊詐欺の手口や被害にあわない為のポイントを学習。	36人

◇広報活動

事業名	事業内容	参加人数
「アスマイル活用講座」 おおさか健活マイレージ	福島区保健福祉課との連携講座。大阪市福祉局職員ほかの講師と対面で登録方法や活用方法を学習。	13人
交通安全セミナー「自転車を安全に活用するために」	福島警察署交通課との連携講座。自転車の安全運転・交通ルールに関する広報。	27人

◇その他

事業名	事業内容	参加人数
風鈴まつり	酷暑の中、夏の風物詩で少しでも涼しさを感じて頂くように寄付された風鈴、手づくりのモビールなどで館内を彩った。	多数
きらめき七夕まつり	季節行事を通じた利用者交流。 期間中に窓口前設置の笹に願いを込めて短冊や七夕飾りを吊し、同好会による発表会も開催した。	94人

【生きがい事業】

◇介護予防

事業名	事業内容	参加人数	備考
百歳体操	毎週定期的な体操を通じて筋力維持、転倒しにくい身体づくりを図る	1,465人	年間98回開催（うち作業療法士指導4回）
健康づくり講座	健康寿命を延ばす体づくりとして「モビバン体操」「座ってピクス」「やさしいヨガ」を提供	653人	半年間で各10回、計30回開催
健康いきいき教室	体操の効用を通じた身体と心の健康づくり。講話と実際の体操をミックス。	283人	2カ月で5回開催を2度
介護予防ダンス	身体に対する知識の取得と身体づくり。JDAC(ダンス教育振興連盟)先生による指導	500人	毎月2回を 通年で計 21回開催

◇文化伝承・三世代交流活動など

事業名	事業内容	参加人数	備考
世代間交流 お誕生日会	海老江保育所の子ども たちとの世代間交流	260人	計4回開催
世代間交流 盆踊り大会	季節行事を通じた海老 江保育所、子ども・子育 てプラザの子どもたち	88人	
バスで行く施 設見学	大和ハウス総合技術研 究所見学	44人	
きらめきコン サート	演奏*を保育所児童と 楽しむ*歌謡曲やアニ ソン、映画音楽など	79人	

◇高齢者の生産・創造活動の振興など

事業名	事業内容	補足	参加人数
きらめき文化祭	高齢者の創造活動の発表と 創造を通じた交流	福島区老人クラブ 連合会と連携	407人

◇その他

事業名	事業内容	補足	参加人数
チャレンジ数独	脳トレの一つである数独に よって認知症の予防につな げる。	毎日常時 自宅でも実施可	9,309人
大人のぬりえ	ぬり絵により集中力を高め るとともに、ヒーリング効果 を期待し、色彩感覚や創造性 を働かせることで認知症予 防を図る。	毎日常時 自宅でも実施可	155人

【同好会】

名称	開催回数	参加人数
初級囲碁教室	計 4 1 回	2 5 1 人
ダーツ	計 4 0 回	3 1 4 人
折り紙	計 2 4 回	3 3 4 人
絵画	計 2 2 回	2 4 3 人
俳句	計 1 1 回	5 5 人
詩吟	計 2 2 回	2 3 9 人
卓球 1 ・ 卓球 2	計 1 0 0 回	9 4 0 人
カラオケ 1 ・ カラオケ 2	計 4 4 回	6 1 3 人
民踊	計 4 1 回	4 1 9 人
ティーセレモニー	計 8 回	3 5 人
書道細字	計 1 2 回	2 1 8 人
書道	計 1 3 回	7 5 人
大正琴	計 2 7 回	2 1 6 人
シニア元気クラブ	計 2 9 回	6 4 7 人
フラダンス	計 4 8 回	3 7 7 人
ゲーム（健康マージャン）	計 5 1 回	7 8 7 人
笑いヨガ	計 6 回	9 9 人
シニアフィットネス	計 1 8 回	4 5 3 人
リズムセラピー	計 2 2 回	8 2 9 人
実用書道	計 1 2 回	1 6 5 人
合計	計 5 9 5 回	7, 3 0 9 人

※ 囲碁・将棋は月～土曜日の毎日午後開催、自由参加形式。年間利用者数  
約 5, 0 0 0 人

※ 囲碁将棋大会（同好会主催）＝囲碁：毎月、将棋：不定期

※ カラオケ発表会（カラオケ同好会主催）＝秋 1 回

（その他）

#### ① 相談・情報提供事業

利用者との日常的なコミュニケーションをベースに相談や困りごとに親身に対応、必要に応じて適時適切に「あいあいセンター」など関係先に繋げるよう努めた。また利用者との会話やアンケートなどを通じて課題やニーズを拾い上げ、講座を企画実施した。福島区役所、警察署、消防署等公的機関の広報誌やパンフレットをセンター内に配置し、また各種感染症関連情報など高齢者に資する情報の周知に努めた。

#### ② 老人クラブ活動支援

当センター常駐の老人クラブ連合会職員を通じて、区老連・大老連との情報共有や連携を実施した。単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び行事等を支援した。

#### ③ 同好会支援による活性化

代表者会議を通じて、各同好会代表者とコミュニケーションを図りつつ、円滑で快適なセンターの利活用に努めた。一部同好会の中には若干名ながら会員数が増えているものも出てきた。

#### ④ 福島区の地域保健福祉ビジョンへの参画

福島区地域福祉ビジョンが掲げる「地域のつながりの希薄化」「孤立化」「地域活動の担い手不足」「高齢者の外出や交流機会の減少」といった地域の課題に、当センター活動を通じて問題解決や緩和に寄与すべく取り組んだ。また保健福祉課と連携して講座を開催し、広報活動にも協力した。

#### ⑤ 広報活動：利用促進策

毎月末発行の「センターだより」では、当該月の行事・同好会予定の周知案内などを中心に親しみ易い紙面作りを心掛け、そのほか区社協広報誌「あいあいだより」、市・区社協ホームページや区報「広報ふくしま」などを活用して周知を図った。利用者のすそ野拡大に向けた取組みでは、当センター発行の「センターだより」を毎月定期的に各地域のコミュニティセンター、公共施設、福祉施設、民間事業者、各单位老人クラブ（合計 22カ所）への配架・掲示に取り込んだ。

■ 過去5ヵ年度の利用者数の推移：

(人)

利用者 延べ人数	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
年間	13,982	19,581	20,874	22,881	25,108
月平均	1,165	1,632	1,740	1,907	2,092
一日平均	55.5	66.8	83.5	78.1	86.0

※令和3年度は緊急事態宣言等による臨時休館の日数を引いて稼働日250日で算出

■ 利用者向けアンケート結果：

2024年12月実施のアンケート結果

◎満足度（満足＋やや満足）＝87.1%

回答数計170人（男性43人・女性127人）

（ご参考）

・回答選択肢：満足・やや満足・普通・やや不満・不満

・大阪市による目標率＝86.8%